



福島成蹊
高等学校

特進コースREPORT

2019年1月28日
第10号
福島成蹊高校広報室

いよいよ本番！ 大学入試センター試験

1月18日(土)・19日(日) 福島大学会場

「今年が最後」ということで注目を集めた大学入試センター試験でしたが、その前身に「共通一次試験」がありました。これは国公立大学受験において、名前の通り、全員が共通に受験する一次試験でした。そして、さらに、大学個別の二次試験を行い、最終的に合否を決めるというシステムです。「センター試験」はその性格を引き継ぎつつ、私立大学もセンター試験の結果で合否を出すことが可能となり、今年は約53万人が受験しました。

受験翌日には「自己採点」と「リサーチ書類の作成」が行われました。「リサーチ」とは自己採点と志望大学を、ベネッセや河合塾などの受験関連企業に提出することで、合格確率などの資料が返却され、実際の出願の参考とするシステムの事です。センター試験の翌日のうちに結果を送付し、3日後の木曜日には資料を返却する説明会が行われます。たった3日間で数十万人のデータを集約し、資料まで作るには、おそらくは不眠不休の作業を行っているのだらうと思います。

本人の志望とリサーチの結果を元に出願校が決定されます。そしていよいよ、個別試験が開始されます。1月下旬からは私立大学の試験が始まります。国公立大学の前期試験は2月25日・26日で、さらに3月中旬に中期試験、後期試験が行われます。

大学受験は「実力があれば合格する」という単純なものではありません。もちろん「実力」は必要条件なのですが、加えて、メンタルをいかに維持するか(メンタルがつぶれて実力が出せないことは珍しくありません)、学習計画をどう組み立てるか(受験校が決まってからはその大学の出題傾向を徹底的に攻めます)、私立の受験をどう乗り切るか(私立の受験があるうちは国公立の準備が進めにくいし、また、私立の合否結果次第でメンタルも大きく左右されます)・・・などなど。ここからの取り組みが合否を大きく左右します。

ここからが始まりです。センターで泣いた者が最後に笑う、また、その逆もあるのは受験の常です。最後に笑うために必要なことは「粘ること」です。最後の最後までがまんして粘り強く取り組んだものが成功を手にする確率が高いことは、今までの先輩方が証明しています。

大学受験ミニコラム

2段階選抜

1、「2段階選抜」って何？

「2段階選抜」とは、センター試験の成績を用いて2次試験の受験者を事前に選抜(1段階目の選抜)したうえで2次試験を実施する制度です。

2段階選抜の実施の有無は大学によりますが、実施する多くの大学では「志願者が募集人員の〇倍を上回った場合、第1段階選抜を実施する」としており、志願者数の状況によって第1段階選抜の有無が決まります。そのため、実際に2段階選抜が実施されるのは、志願者が集まる難関大学や医学科のような人気学科が多くなっています。

2段階選抜の実施を予告している大学では、センター試験の成績次第で2次試験を受けることなく不合格となる場合もあるわけです。一方、志願者が予告倍率を下回った場合は2段階選抜は実施されません。実際に実施されるのは予告した大学(学部)の2~4割程度です。

2、「2段階選抜」を予定する主な大学

- 北海道大学全学部(前期3.5倍~6倍)
- 東北大学全学部(前期3倍~4倍)
- 山形大学医学部(前期4.5倍)
- 福島県立医科大学医学部(前期5倍)
- 筑波大学全学類(2.5倍~7倍)
- 東京大学全学類(2.5倍~3.5倍)
- 東京工業大全類(600点未満は出願不可)
- お茶の水女子大学全学部(前期6倍)
- 一橋大学全学部(前期3倍)

センター試験対策合宿 12月27日(金)~30日(月)

本番直前の年末、学校に宿泊し、センター試験の演習を徹底的に行います。実際の試験時間に合わせて予想問題を解き、得点に応じて、解説などの対策を行います。年が明けてからも、通いの形で演習が行われます。

受験でよく言われる「現役は最後まで伸びる」の通り、毎年、この合宿で大きく点数を伸ばす生徒もいます。「受験は団体戦」の合言葉の通り、みんなでモチベーションを上げていきます。



センター試験激励会 1月16日(木)



後輩、先生方から受験生に激励の言葉を送りました。

大学受験は、今まで経験したことのないプレッシャーに襲われます。そのとき、この激励が助けになった、と卒業生は口にします。

センター試験が終了し、その結果に応じて出願大学を選択する時期を迎えています。私はいままでの取り組みが何とか良い結果につながり、第1志望の大学に出願できることになりましたが、センター試験がゴールではありません。担任の先生の「センター試験は終わりではなく始まりだ」という言葉で、改めて2次試験まで頑張ろうと思いました。そして、私が何とか結果を出すことができたのは、最後の最後まで苦手分野を対策してくださった先生方や、万全のコンディションで試験を受けられるようにしてくれた両親のサポートの賜物だと思います。そのような方々のおかげで志望大学にチャレンジできるという気持ちを忘れずに、謙虚に愚直に頑張っていきたいと思います。



3年 小賀坂蓮さん
(伊達市立梁川中出身)